



伊豆の国市 議会だより

創刊号

2005年11月1日発行

No. 1

編集：伊豆の国市
議会だより特別委員会

410-2292 静岡県伊豆の国市長岡340-1
☎055-948-1417 FAX055-948-2913



堀越保育園運動会(菰山)
ほりこえ

9月定例会

発刊にあたって	2
一般質問	3
平成16年度決算認定について	7
平成17年度補正予算について	9
議案一覧	11

発行にあたって



議長 岩崎 正義

伊豆の国市議会だよりの発行にあたり、市議会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

伊豆の国市が誕生して早や六ヶ月が経過いたしました。振り返ってみますと、旧三町議会で市町村合併の機運が高まりましたのは、平成十五年の初めからでありました。狩野川など豊かな自然環境を共有し、財政規模、人口など似かよった旧三町の合併が最適と判断し進められ、平成十五年三月各町の議会での「伊豆長岡町、菫山町、大仁町の三町合併の促進に関する決議」以来、およそ二年間かけ合併協議会等で協議を重ね、本年四月一日に伊豆の国市が誕生いたしました。

今日まで、旧三町で培われた、歴史や文化・伝統を充分に活かしながら、本市のまちづくりの将来像であります「自然を守り、文化を育む、魅力ある温泉健康都市」の具現化に向けて努力しなければなりません。

今、地方が直面している少子・高齢化や、多様化する住民ニーズ、分権型社会の推進、市町村の財政を支えてきた各制度の激変への対応は、合併によって自主財源の確保と安定化を図り、足腰の強い財政基盤をつくと共に、簡素で効率的な行財政運営が、これまでも増して重要になってまいります。

これから、私たち市議会としましても、市政のチェック機能を果たすだけでなく、議会では何を議論し、また課題になっているかを、市民の皆様知っていただき、皆様のお声を施策に反映していくことがなにより重要であると思っております。

私ども市議会議員一同、市民の皆様の大きな期待に応えるため、これからも、全力で市政に取り組んでまいりますので、一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

「議会だより」創刊号発行に当たって



市長 望月 良和

平成の大合併により、本年四月一日に誕生いたしました新市「伊豆の国市」も、早いもので半年を経過しようとしております。

新市の将来像「自然を守り、文化を育む、魅力ある温泉健康都市」を旗印に、議会、行政とも無事に船出をいたしました。新市の特色であります豊富な温泉と温暖な気候、地元産の安全な食べ物などを活用し、医学と組み合わせた予防医療や健康維持、介護予防などの新たな取り組みを市民はもとより、来訪者へも健康人づくりの仕組みとして提案します。そして、健康長寿、健康増進とともに産業振興を進め、活力に満ちた「温泉健康都市」を目指します。

市議会も五月の臨時議会の開催に始まり、六月の定例会で平成十七年度の当初予算審議、九月には旧三町の決算審議そして補正予算審議とあわただしい日々が続きました。この間、旧町の諸問題の解明や課題の研究等、一般質問や審議・意見により行政側の意見交換がなされてきました。

こうしたなかで浮き彫りになった本市の喫緊の課題は、水害対策の抜本的解決、ごみ処理施設の建設、観光産業の活性化・商工業の振興、安全な農業の充実、観光道・生活道の整備促進であります。これからの伊豆は、観光産業を主力とした関連産業への全力投球がなにより急がれております。それには地域の活力が必要であり、またそれは地域の特色ある「まちづくり」にあると言えます。そのためにも議会と行政が牽引の両輪となって、その機能を発揮することを期待します。その手段としての「議会だより」の発行には期待を寄せております。

一般質問

公共施設へAED (自動体外式除細動器) 導入について

伊藤 泰伊

問 停止した心臓の鼓動を電気ショックで再生させ、突然死から救うAEDが一般市民でも扱えるようになって一年がたつ。効果は実証されつつあるものの普及の動きは遅い。公共施設を中心に、導入を真剣に検討してもいいのでは。

答 我が国の病院外での心停止の件数は、年間二万から三万件程度と推定され、心疾患による死亡者数も年々増加をする傾向にあります。今後も高齢化の進展により心筋梗塞等の心疾患増加が予想される状況を踏まえ、市民の安全、安心の確保のため、公共施設でのAEDの導入を検討す



自動体外式除細動器

る必要があると考えております。一方、この制度本来の目的であります市民の使用については、まだ市民などの理解が追いついていないのが実情であり、実際に医師や救急救命士以外の資格を持たない市民が使用した例はほとんどないが、AEDの導入に合わせて、機器の使用に関する講習会を市職員も含め考えたい。

市内循環バス導入について

問 車社会の現在ではあるが、高齢者やその他、自家用車を持たない市民の移動手段の確保として、路線バス運行されない空白地域の解消により経済効果の向上の一環になるのでは。

答 現在市内に運行されている電車及びバスの運行路線、時間、本数、また利用者数の調査等から、現状の市内交通体系が、市民の皆様の利便性確保に對し十分機能しているかを検証し、市内循環バスの導入に關しては引き続き調査を進めてまいります。

山田川(大仁守木地区) 上流部へ砂防えん堤 建設の早期実現を

三好 陽子

問 台風・大雨のたびに浸水被害を受け、改修要望が出されている山田川について県沼津土木事務所は「上流部にえん堤設置することが効果的」との見解を出し、昨年十一月から今年二月にかけ測量を行った。早期実現が待たれているが具体的計画は。

答 土木事務所では、建設予定地の縦断測量・横断測量・平面測量が完了。県は測量結果をもとに国土交通省の採択を受けるため、中部地方整備局のヒアリングを受ける予定。

採択の可否は未確定だが、県は建設計画の用地状況調査を実施する計画である。

問 実際は、やっていただけける状況にあるのか。

答 大仁では、ここは一番沼津土木では、採択いただけよう頑張っている。



山田川の下流

伊豆コミュニティー空港建設について

問 今年七月、伊豆の国観光協会・建設産業協会、旧三町各商工会の五団体は、「伊豆中部の交通アクセラ整備に関する要望書」を副知事に提出。この要望項目の中に「伊豆コミュニティー空港開設」とあるが、経過と現状をどのように把握しているか。

答 県として、現在のところ具体的素案や計画の策定、現地調査といった活動はないようだ。

当市は、具体的活動は行っていないが、費用対効果などのくらいか調査が必要。今後は、コミュニティー空港整備の必要性について調査・検討をしていきたい。

同報無線一元化は現在
あるものの有効利用を

田中正男

問 合併協方針は、旧三町で使用していた三波の同報無線を、三年間でデジタル方式による一つの周波数に統一するとしているが、総務省は一市一波にこだわらず一システムで伝わることが大事としている。デジタル方式は多機能だが利用する予定がなく、障害物に弱いため中継が多く必要。費用も四億二千万円と多当分は今の使用可能なものを使用すべきでは。

答 合併協の方針は基本的な計画であり、現実の問題として対応を今後考えていきたい。

問 戸別受信機は特に台風時など締め切っている時に効果がある。全世界に設置すべきではないか。

答 高齢者世帯、障害者のいる世帯、難聴地域の世帯には必要と考えている。大仁地区に二、二五六台設置されている戸別

受信機が、デジタル化では使えなくなる。今の大仁の波を使う検討を。

答 デジタル化しないことになれば考えたい。



ペット霊園条例の制定を

問 高原地区において、ある事業者がペットの火葬と埋葬を行なう霊園を開園する準備を進めている。周辺住民や地元区からは、景観、地域イメージ悪化や煙、臭い、火災の心配、路上駐車など問題が出され、話し合いがされているが解決には至っていない。ペット霊園については規制がありません。環境への配慮と地域住民とのトラブル回避のために、条例の制定を。

答 県内では相良町が唯一の条例を定めているが、上位法の規定がない状況で条例を定めるには、十分な調査が必要と考えている。

古奈・天野地区の
水害対策について

大沢秀光

問 伊豆の国市が管理する天野原川の雨水は、堰口樋管から狩野川本流に放流されるはずですが、この堰口樋管は昔のまま狭く又堤内地側と逆勾配になっている為流れにくいです。

答 天野原川から溢れ出た雨水は古奈東部地区へ流れ込みます。古奈には長岡・古奈バイパス雨水幹線がありますが、古奈東部からの流入水は計画外だとされています。

問 長年の歳月と巨額な予算をかけて完成された天野原川は、堰口樋管が改修されない為本来の機能がはたされていません。

答 小学校の通学路でもあり又天野公園整備事業も始まりました。狩野川との合流点であり、市としてどのような計画を立てて整備しているか。現在、この地区の雨水排水は排水区を三つに分けて内水の排除が行なわ

れております。古奈樋管に流れ込む長岡・古奈排水区、千歳樋管に流れ込む曙町排水区、堰口樋管に流れ込む原排水区の三つです。この地区は、土地改良事業により整備された地区で、水路が排水兼用で宅地化が進みましたが、現在でも農地が点在しすぐに水路を排水路とすることが困難な地区です。

問 また、未整備地区の排水区では、土地改良事業の用水路の末端地区で道路冠水が起きているのが現状です。曙町排水区の計画を実施するには大きな水路がない為多くの用地を買収しなければなりません。

答 今後は、現在ある水路、道路、側溝等を改修し、浸水軽減に努力いたします。堰口樋管の関係は大きい断面にし、スムーズな排水が図れるような整備が必要であると考えています。



堰口樋管

観光振興・高校支援・
ゴミ処理について

土屋源由

問 観光振興と行政の取り組み情報の発信は重要な施策であり常時対応出来る体制を整えるべきだが、市としては観光協会、旅館組合に働きかけている。観光協会では平成十八年度より、土日も窓口を開ける方向で検討中である。

答 これにより観光客、イベント告知等情報発信が土日も含め毎日できる。市役所では、観光情報、案内等の簡単な説明ができる観光パンフ、チラシ、イベント情報等を日直室に設置した。

問 市内三高校に対する支援市内の県立高校三校の通学路の整備等の取り組みは、葦山地区では、グラウンド周辺に芝を移植してつるぎのスペースやほこり対策を実施している。駅東口を活用して、早朝の高校生と小・中学生との通学路の分離化を図っている。安全対策として学校内や周辺

に、未整備地区の排水区では、土地改良事業の用水路の末端地区で道路冠水が起きているのが現状です。曙町排水区の計画を実施するには大きな水路がない為多くの用地を買収しなければなりません。今後は、現在ある水路、道路、側溝等を改修し、浸水軽減に努力いたします。堰口樋管の関係は大きい断面にし、スムーズな排水が図れるような整備が必要であると考えています。

を警備員による巡回もしている。これらを参考に実施可能なものから今後取り入れていきたいと考える。

問 市の施設を高校の部活等に活用させては。

答 市の施設で調整がつく限り、市内高校の部活にも、要請があれば協力を惜しまない方針である。また、青少年健全育成のためにも市の体育施設全体も前向きに整備して取り組んでいく。

ごみ処理と環境政策

問 山積みしたゴミの処分計画と環境政策の継続の有無と告知は…。

答 野積みされた粗大ゴミは、九月補正予算に計上して、滞留した粗大ゴミを一気に片付ける計画である。クリーンキャストは継続しているが、区域拡大で清掃時間や配置人員が少なく、対応できない範囲は、地元市民の協力をいただき環境美化に努める。告知は、区長会等を通じ状況報告と環境美化への協力をお願いしていく。

**総合計画と都市計画
マスタープラン策定は**

柳沢秀次

問 新市の羅針盤とも言える第一次総合計画とそれに基づく都市計画マスタープラン策定に対し、どんな考え方で進めますか。

特にマスタープラン策定で言うところ、葦山地区は過去に国の農業補助整備事業に多額の予算投入をしており、宅地転用は公共施設と特例を除き永久に出来ず、農家の方は大変困っています。

都市計画マスタープランで将来計画を立て、場所・面積を指定すれば法律改正もあり転用可能と聞きました。伊豆の国市もこれから人口の減少が起きますが、維持する為にも早期策定を望みます。

答 まず、第一次総合計画ですが、七月に「伊豆の国市ゆめづくり市民会議」

を八十名で行ない、市民参加で進めて行きます。また、来年一月までに議論を深め市民会議の意見書を提案書としてまとめてもらい、そ

の後、庁内ワーキング、連絡調整会議及び総合計画策定委員会で協議し、今年度末に基本構想案、来年九月に基本計画案を作つて十二月には基本構想の議決をする計画です。

次に、都市計画マスタープランですが、伊豆の国市総合計画策定がされた後に、市全体や広域圏の視点から土地活用及び都市基盤整備の方針を導くべく、市のマスタープラン策定をして行くべきと考えます。

都市計画マスタープランの重点事項は、伊豆の国市の豊かな自然、景観、産業文化など、それぞれの地域の特色を活かしながら連携を図ることにより、伊豆の国市の均衡ある発展を目指します。

策定は、来年度より準備に入り二年程度をかけ、市民の声も反映して策定して行きます。

**子育て支援の
拡充・拡大を**

山下孝志

問 公平なサービスの提供の観点から、他県での妊婦健診も無料に。

答 静岡県と医療機関で締結している妊婦健診の契約内容により、委託が可能であれば、県外のどこの医療機関でも健診が受けられるように、対応したい。

児童・生徒通学費補助金制度の拡大を

問 保護者負担の軽減のため、制度拡大が必要と考えるが。

答 月額の保護者負担は、葦山小学校のバス利用者で三、七二〇円、大仁中学校では、定期券の三十五%で三千元から五千元です。自家用車使用の場合は、一km当り三十七円の補助金を出している。

ある程度の距離は、子供たちに歩かせた方がいいと考えており、積極的に出した方(拡大)が良いと思っていない。



通学バス (奈古谷)

市民の利便性拡大を

問 市・指定ごみ袋の近隣市町での販売を。

答 販売する地域を定める方法を検討したが、大量に仕入れが出来、価格が安くできる大型店が中心になり、結果、最寄りのお店での購入が出来なくなることを心配して、現在の販売方法になった経緯がある。市外のお店での購入ができるという利便性は向上すると思いが、お年寄りや車のない家庭に配慮した現在の方法をご理解いただきたい。



狩野川の堤防の整備と水辺の整備について

松下善洋

問 市内を流れる狩野川の堤防には、桜やアーモンドの木が植えられ、市民を始め観光客の注目を浴びている。今後も狩野川は、親しみやすい川として整備に努めていかなければいけないと思うが、市当局としては国交省との協議も必要であり、狩野川の堤防の整備をどのように考えているのか。

答 狩野川は、市民に潤いを与えるとともに、景観にも役立つ。旧三町では、桜やアーモンドを狩野川の堤防沿いに植栽している。将来、地域の憩いの場となると確信をしている。

今後、現存する桜等の維持管理に努めながら、狩野川沿線において治水に影響なく植栽できるような場所があったら、整備出来るよう取り組んでいきます。

問 まちづくりを進める中で、伊豆の国市に流れ

る狩野川の水辺の活用は、重要であると思う。まちづくりと一体となった取り組みが必要と考えるが、水辺の活用の構想についての見解は。

答 狩野川の水辺を活用したイベントとして、狩野川薪能や狩野川カルノイスト、また、堤防を利用した狩野川百キロサイクリングなどを実施をしている。

これらは、地域の川として親しまれる狩野川の自然環境の大切さや狩野川の魅力というものを、後世に伝えるべく開催をされている。今後、市といたしましては、より一層、狩野川の水辺空間の活用を推進していくとともに、ふるさとの川として皆様に親しめるよう取り組んでいきたい。



アーモンドの花

広域ゴミ焼却場建設

古屋鋭治

問 広域ゴミ処理施設建設問題は市内の処理施設が老朽化しており、六月議会で早期建替えを求めた。その後、伊豆市との話し合いは怎么样了のか。

答 本件については、八月の調整を行ったが、基本的に二市で進めることに変わりはない。建設場所は数ヶ所の候補地を担当者で調査している。建設規模は五トン二炉構成で一〇〇トン規模の見込み。費用は六十億円から七十億円と想定している。建設年度は平成二十二年年度から平成二十三年度と考える。

問 温泉掘削は昨年十月から旧大仁町浮橋でスタートした。湧出の確率はどの程度か。市になり、町当の計画に変更はあるのか。今後の進め方は。

答 温泉は、深度千から千三百メートルで毎分六

十リットル程度の湧出量が想定されている。今後の計画は、平成十八年度以降、施設建設の基本計画、実施計画を行い、その後、施設整備用地の取得、動力装置の工事等を行い、予定としては平成二十一年度には施設建設に着手したい。旧町での計画は、長期滞在型施設の整備としていたが、今後は介護予防や観光の観点の活用も考えたい。

大仁中学校舎建替え
問 大仁中学校は建設後四十二年が経過し、老朽化が進みコンクリートが落下するなど建替えは急務である。校舎建替えまでの計画は。

答 校舎の建替えは現在の敷地に建てる計画である。平成十八年度から平成二十二年年度の期間で、基本・実施計画を委託し、解体工事、本体工事及び付帯工事を行いたい。



市税の徴収率の向上と対策に万全を

菊池俊彦

税の公平性、財源確保の観点から見れば、徴収率を一〇〇%により近づけるのが、行政の責務と考えます。

徴収率向上の対策は

問 低下傾向にある徴収率の現状・今後の向上策は。

答 どの自治体でも大変苦慮しているのが現実。伊豆の国市誕生後、優先して取組んだのは旧三町より引き継いだ市税債権を確定し、徴収義務に空白が出来ないように努めた。統合が図られていない滞納者の管理方法は、滞納者管理システムに滞納者との折衝履歴や滞納処分等の情報を入力、情報の一元化を図り情報を共有。過去の経緯等がわかりスムーズな対応ができる環境ができたと考えます。

滞納整理事務は訪問徴収の強化を推進、毎月三回三班編成で夜間徴収を実施中。

問 滞納者への初期対応は、訪問徴収で。

答 納期限後の二十日以内
に督促状を発送、督促
状の発送一カ月後に催告状
を発送し、納付認識の継続
を図っている。

新規の滞納者には、文書
の送付による一方通行的な
対応だけでなく、訪問徴収
を実施していきます。早期
納税相談に応じる体制作り
を進めているところです。

口座振替制度について

問 口座振替の再引落とし
制度の導入は。

答 合併時での導入は見送
っております。今後も
金融機関との調整を図って
いきたいと考えております。

コンビニ収納取扱いはいつ

問 市税等のコンビニでの
取扱について。

答 三島市、伊豆市、伊豆
の国市電算センター協
議会でのシステム開発やコ
スト面の調整、静岡県地方
税の一元化構想の動向を踏
まえ課題や効果を調査、市
税への拡大を検討していき
たいと考えております。

はがきで市政に

参加しよう

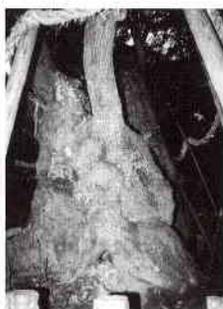
後藤 眞一

問 はがきで、市政に参加
できるようにすべきだ。

答 よい方法だ。郵送料は
市の負担で、はがきを
十月配布の予定である。
(十月配布済み)

問 巨樹・名木・鎮守の森
社殿・祠などは、保護

すべきであり、防災や環境
上、常緑照葉樹林を形成す
べきではないか。



推定樹齢2500年の楠木

答 保護に向けて、市全域
を対象にした条例制定
を準備中である。継続的に
取り組んでいく。

問 消防団OB防災団の再
編成と、自主防災会を

答 継続的活動可能な組織に。
自主防災会と消防団の
弱点を補う地域防災の

一翼を担うもので、各自主
防災会単位に推進すべきで
あるが、防災団への給付は、
市で対応できる。

問 少子化対策支援は、給
付金の見直し・環境整
備・就業環境と育児施設の
充実・企業との連携なども
視野に入れるべきである。

答 子供と親が快適な生活
を送ることができるとを
第一の目的としている。

企業との連携も検討してい
かなければならない。

親子学習事業を展開して
いるが、地域の活性化は必
要であるが、大変な課題で
もある。

問 幼保小中学校に、カラ
ーレーザープリンター
を標準整備し、印刷物のカ
ラー化を図るべきだ。

答 予算を組めるように、
前向きに検討したい。



平成16年度決算認定

九月議会は、決算議会とも言われますが、旧三町別の出身議員が、それぞれ特別委員会を構成して、旧町の決算の認定審査を行いました。

旧伊豆長岡町 決算特別委員会

九月定例議会は、通常前
年度、つまり平成十六年度
の決算を認定するわけです
が、今回は旧三町は既にあ
りません。協議の結果旧三
町の決算特別委員会を作る
ことになりました。その為、

この委員会は旧伊豆長岡町
選出の七名の議員で構成さ
れ、九月十二日、十六日の
二日間で一般会計と特別会
計八議案の計九議案の決算
認定を行いました。もちろ
ん説明側も全員旧伊豆長岡
町の職員です。まず十二日
に丸一日かけて、最も重要
な一般会計の審査を行ない
ました。総額六十三億五千
万円の大規模決算と成りまし
た。

主な質疑は、

問 職員駐車場料金につい
て。

答 片道二km以上の人に貸
し、料金は一ヶ月千円です。

問 消防費地元寄付金につ
いて、これまでの要望は今
後どうなるのか。

答 ポンプ車等の更新計画は新市に引き継ぐ。全体で優先順位をつけ、更新していきます。

問 町税全般の収納率を三町で比較すると。

答 三町の中では大仁町が一番高く、次いで韭山町です。

問 温泉事業協同組合補助金について

答 温泉保護対策基金を繰り入れて、井戸、ポンプ等の更新をしていく為のものです。

この後、採決を行ない全員賛成で認定されました。

同様に十六日には国民健康保険特別会計を始めとして、計八つの特別会計の審査を行ない、すべて全員賛成で認定されました。

これをもって、旧伊豆長岡町の予算、決算のすべてが終了したわけで、委員一同感慨深いものがありました。

旧韭山町決算特別委員会

七十二億四千四百万円

旧韭山町決算特別委員会は、九月十二日と十六日開催。

議題は、十六年度韭山町

一般会計・国民健康保険・老人保健・介護保険・下水道事業・上水道事業及び土地取得の七会計の決算審査

で、結論は、予算が議決した趣旨と目的どおり適正にしかも効率的に執行され、成果が上がっていると認め、原案通り認定と決定した。

実質黒字二億一千万円

歳入総額七十二億一千四百六十五万円、歳出総額七十二億四千四百二十五万円の決算であるが、この決算は、合併で三月での打ち切り決算のため、未収金・未払金の多い決算となった。

十七年度に入り三億七千八百万円の未収金収入があり、

実質の歳入総額は七十五億九千三百万円に一億三千七百

百万円の未払金の支払いをしたので、実質の歳出総額

は七十三億八千万円に、歳入歳出差引額は二千九百六十万円の赤字が、二億一千二百万円の黒字となりました。

富士見幼稚園完成

実施した主な事業

○富士見幼稚園／四億三千万円

○守山西公園／一億五千万円

○合併事業／一億七千万円
○旭台下水工事／九千万円
○台風二十二号工事／七千万円

主な質疑

問 歳入より歳出が多いマ

イナス決算、どうしてか。

答 幼稚園などの補助金が四月以降となったためです。

問 通常での決算額は、千七百八十九万円の黒字となります。

問 生ごみ堆肥化の状況は、焼却でなく堆肥化を進める。

問 体育館耐震補強工事は、工事は一八年度で考え

旧大仁町決算特別委員会

主な質疑

問 寄付金の内容について。

答 ㈱ミロクの地域貢献寄付と自家用自動車組合解散に伴う精算金寄付。

問 星和区公民館建設補助金について。

答 旧大仁町コミュニティ補助金要綱による八〇〇万円、県より四〇〇万円、町長が特に認めたものとして一〇〇万円。

問 消防ポンプ車購入代金が昨年ものより三〇〇万円程、値段が高いのはなぜか。

答 法律により、消防ポンプ車の排ガス規制が強化され、本体価格が上昇した為である。

問 水道事業の財政状況は良好だが、合併後の水道料金の見通しは。

答 水道料金は、給水原価と販売原価により決まる。現在は、支出を抑えているので利益が出ている。今後の料金は、旭化成㈱の動向に左右される。

問 介護保険は、五年計画三年ごとの見直しとなっているが、今年はどうだったか。

答 計画内容が右肩上がり、に膨らんできているので、現在の保険料では少ない感じがする。平成十六年度は計画通りであった。

問 国民健康保険は、基金繰入なしでも運営ができたのに、なぜ保健料の引き下げを考えたのか。

答 過年度は、景気回復傾向になく、税収を多く見込めなかつた為である。

問 ゴミの最終処分場は、今後何年利用できるか。

答 あと三十年の予定ですが、旧伊豆長岡町分も入るので十五年程度かと思う。

問 吉田幼稚園の跡地利用はどのようになっていくか。

答 一部は、鍋沢ふれあい公園に、駐車場跡地は、ゴミの集積場と山車小屋として利用している。

問 乳幼児医療費助成が増加、特に、通院件数が増えているが。

答 色々な要素があるので、今、分析中である。



平成17年度補正予算

平成17年度補正予算は、議案第90号伊豆の国市一般会計補正予算(第3号)を除き全て、各委員会に付託され詳細に審議がされました。審議内容の結果は、各委員会報告のとおりです。

平成十七年度 一般会計補正

予算(第三号)について

市長より提出された平成十七年度一般会計補正予算(第三号)は、既定の歳入歳出予算の総額に三千百五十六万円を追加し歳入歳出予算の総額をそれぞれ百八十一億五千二百五十六万円とするものです。

歳入の主なものは普通交付税交付金、公共土木災害復旧費負担金、災害復旧事業債です。

歳出の主なものはアスベスト対策と台風十一号の災害復旧に関するものです。斐山南小、長岡幼稚園、田京幼稚園、中央図書館のアスベスト対策改修工事と分析調査業務委託科。台風十一号被害による林道災害復旧事業、土木災害復旧事業、公園施設災害復旧事業です。審議審査の結果、全員賛成で可決されました。



総務委員会

歳入では、地方特例交付金が千九百五十四万円、普通交付税が六千二百三十九万三千円の増額で、これは交付額の確定によるものです。財産収入の土地貸付料が旧斐山町外二ヶ町組合の土地貸付料等で七千九百九十五万八千円の増額となりました。また旧三町の歳計剰余金の精算として合計五十六万四千円の増額となりました。

歳出では、公有財産維持管理事業の統一財産配分交付金が六千四十二万二千円の増額、北江間財産区管理事業の北江間各区補助金(北江間財産区から繰入し各区分に支出)が百八十五万円の増額、伊豆長岡庁舎改修事業の庁舎増築及び耐震補強設計委託料で二千八百五十万の増額となりました。情報システム費の電算センター負担金が七千五百万円の減額で、これは合併時のシステム統合に係る経費の負担金の精算によるものです。

文書等收受発送事業の郵便料が千八百万円の増額となりましたが、これは市役所全体の郵便料を一括計上し、あるため、各事業の通知等の増加に対応するものです。

また、今回の補正予算では、旧各町で計上した未収金・未払金(十六年度分の収入・支出のうち、打ち切り決算であったため、十七年度予算に計上したもの)の金額の確定による精算が各項目に計上されました。

国民健康保険特別会計補正予算(第一号)では、三千九百四十一万二千円の減額で、補正後の予算総額は五十二億三千五百五十八万八千円となりました。

老人保健特別会計補正予算(第一号)では、五千三百七十三万三千円の増額で、補正後の予算総額は四十三億二千九百七十三万三千円となりました。

各会計とも、合併前に編成した予算を、より実際の執行状況に即したものとすするための補正予算の計上となりました。

福祉環境委員会

最初に、健康福祉部所管の歳入では国からの補助金が新設された歯周病予防事業、成人健康相談事業を初め、平成一六年度事業の確定に伴う補助金の清算により、増額補正が組まれました。

歳出では、高齢者福祉費のねんりんピック事業費は交付要綱に従い、一般会計予算からねんりんピック実行委員会交付金に組み替えを行いました。児童福祉総務費では未就学児の乳幼児医療費の個人負担完全無料化を十月一日から実施することとし、それに伴う医療費助成金千五百万円の増額補正です。

保健衛生費の健康づくり課職員人件費については異動により、職員一名が減ったため、給与等の減額を行い、また、時間外手当の増額と合わせまして、百二十一万八千円の減額となります。予防費では日本脳炎の予防接種を取り止めたことにより、一千万円の減額としています。

観光建設委員会

次に、市民環境部所管の歳入では使用料及び手数料と諸収入の補正で、いづれも旧町の未収金で金額の確定による減額補正の提案がありました。

歳出では、環境保全費の不法投棄対策事業費の増額や環境政策課職員人件費が追加されます。

また山木グリーン公園維持管理費の計上を行い、未払金の精算と合わせますと二百四十二万七千円の減額となりました。清掃費では、クリーン課職員人件費で時間外勤務手当六百二十万の追加、また廃棄物処理費では、長岡不燃物処理事業に千七百六十万一千円の追加を行い、大仁最終処分場維持管理事業に七百三万五千円の追加が主な補正内容でありました。

介護保険特別会計補正予算（第一号）では千三百七十三万七千円の減額で、補正後の予算総額は二十五億六千四百二十六万三千円となっております。審議の結果は介護保険特別会計は賛成多数、他は全員賛成でした。

観光建設委員会では、平成十七年度の一般会計と三特別会計について補正予算の審議を行いました。

一般会計補正予算

一般会計では、農林業費、商工費、土木費が観光建設委員会の所管となります。補正については細かな内容もありますが、中でも補正額の大きなものは、土木費

の道路施設維持補修事業と河川維持管理事業で、合わせて三千六百万円となり、当初予算八千百万円に追加となります。この内容は、地区の要望で各区より要望の出された道路の補修や河川の整備に対応する事業費が不足した為です。この追加予算でも地区の要望全体の四割程度の事業しか出来ませんが、市長の方針で出来るだけ多くの要望に答えていきたいとの説明です。

道路新設改良事業では、県下水道事業との絡みで中止した一千万円を、天野公園付近の歩道工事に充て実

施する予定です。

農林業費では、風倒木処理に三百万円が補正され、荒れた状態で放置されている山から、河川や施設の二次災害を防ぐ為に処理をする予算です。また、県が実施する高原浮橋農業集落道整備事業に道幅を四mから六mに広げて整備する為の、市で負担する測量設計委託料三百五十万円を予定しています。

以上のような内容も含め審議をした結果、緊急性のある事業や地区要望への対応事業など、補正予算による事業の実施は妥当であると認め、観光建設委員会では全員賛成との結論を出しました。

委員会では、一般会計の他、簡易水道等事業特別会計、下水道事業特別会計、楠木及び天野揚水場管理特別会計の補正予算の審議も行いましたが、紙面の都合で内容説明を掲載出来ない事をお詫び申し上げます。

文教委員会

予算の編成については、合併協議の調整結果による計上漏れ、緊急に整備を必要とする工事、又、個人情報保護管理等、時代の要請に応える取り組みであり、

- 一、歳入では、
- 一、教育総務費、八百四十五万円の増額。
- 二、小学校費、一千二百三十七万二千円の増額。
- 三、中学校費、二百九十万一千円の増額。
- 四、幼稚園費、三千四十七万九千円の減額。
- 五、学校給食費、五十万二千円の減額。
- 六、社会教育費、六百四十八万七千円の増額。
- 七、保健体育費、六十三万四千円の増額。
- 八、文化財保護費、三億六千二百二十六万六千円の増額。
- 九、図書館費、百七十三万九千円の増額。合計、三億五千七百八十二万六千円の増額計上となりました。

購入面積は、七千二百八十四、五平方メートル。電源開発健康保険組合所有地で、守山周辺に所存する史跡、北条氏邸跡等の三

金として、三億五千七百八十二万六千円は、先行取得による、国庫補助金や、市債で賄われます。

歳出では、主に、史跡伝堀越御所跡用地購入費として、三億六千二百二十五万

円が計上されました。購入面積は、七千二百八十四、五平方メートル。電源開発健康保険組合所有地で、守山周辺に所存する史跡、北条氏邸跡等の三

国指定史跡で、保護、保存、整備し、史跡公園整備の認定を受けました。旧韭山町では、平成十四年から、発掘調査を実施し、庭園遺構も確保され、今後の伊豆の国市の史跡として、観光面での、大きな財産となる様期待をされ、取得するものです。

主な財源は、教育費補助



伊豆の国市議会9月定例会 可決承認された議案一覧

- 議案第42号** 平成17年度伊豆の国市一般会計補正予算(第1号)の専決処分について
- 議案第43号** 市道路線の廃止について
- 議案第44号** 道路の路線の認定について
- 議案第45号** 平成17年度天野公園整備工事請負契約の締結について
- 議案第46号** 伊豆の国市税条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第47号** 伊豆の国市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第48号** 伊豆の国市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第49号** 伊豆の国市下水道条例の一部を改正する条例の制定について
- 議案第50号** 伊豆の国市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例の制定について
- 議案第51号** 伊豆の国市行財政改革推進委員会条例の制定について
- 議案第52号** 伊豆の国市総合計画審議会条例の制定について
- 議案第53号** 伊豆の国市表彰条例の制定について
- 議案第54号** 伊豆の国市名誉市民条例の制定について
- 議案第55号** 政治倫理確立のための伊豆の国市長の資産等の公開に関する条例の制定について
- 議案第56号** 平成17年度伊豆の国市一般会計補正予算(第2号)
- 議案第57号** 平成17年度伊豆の国市国民健康保険特別会計補正予算(第1号)
- 議案第58号** 平成17年度伊豆の国市老人保健特別会計補正予算(第1号)
- 議案第59号** 平成17年度伊豆の国市介護保険特別会計補正予算(第1号)
- 議案第60号** 平成17年度伊豆の国市簡易水道等事業特別会計補正予算(第1号)
- 議案第61号** 平成17年度伊豆の国市下水道事業特別会計補正予算(第1号)
- 議案第62号** 平成17年度伊豆の国市楠木及び天野揚水場管理特別会計補正予算(第1号)
- 議案第63号** 平成17年度伊豆の国市土地管理特別会計補正予算(第1号)
- 議案第64号** 平成16年度伊豆長岡町一般会計歳入歳出決算の認定について
- 議案第65号** 平成16年度伊豆長岡町特別会計歳入・歳出決算の認定について(国民健康保険・老人保健・介護保険・下水道事業・土地取得・楠木及び天野揚水場管理)
- 議案第71号**
- 議案第72号** 平成16年度伊豆長岡町上水道事業会計決算の認定について
- 議案第73号** 平成16年度韭山町一般会計歳入歳出決算の認定について
- 議案第74号** 平成16年度韭山町特別会計歳入・歳出決算の認定について(国民健康保険・老人保健・介護保険・下水道事業・土地取得)
- 議案第78号**
- 議案第79号** 平成16年度韭山町上水道事業会計決算の認定について
- 議案第80号** 平成16年度大仁町一般会計歳入・歳出決算の認定について
- 議案第81号** 平成16年度大仁町特別会計歳入・歳出決算の認定について(国民健康保険・老人保健・介護保険・簡易水道事業・下水道事業)
- 議案第85号**
- 議案第86号** 平成16年度大仁町水道事業会計決算の認定について
- 議案第87号** 平成16年度伊豆長岡斎場施設組合会計歳入・歳出決算の認定について
- 議案第88号** 平成16年度伊豆長岡町・韭山町・大仁町合併協議会会計歳入・歳出決算の認定について
- 議案第89号** 平成16年度韭山町外2ヶ町組合歳入歳出決算の認定について
- 議案第90号** 平成17年度伊豆の国市一般会計補正予算(第3号)
- 議案第91号** 伊豆の国市助役の選任について



伊豆の国市 市議会議員



土屋 紀男
 土屋 源由
 鳥居 松彦
 岩崎 正義
 矢田 博美
 松島 善洋
 増島 一良
 山下 孝志
 柳沢 秀次
 大沢 秀光
 板垣 紀夫
 秋田 清
 水口 哲雄
 菊池 俊彦
 三好 陽子
 田中 正男
 古屋 鋭治
 水口 成男
 伊藤 泰伊
 飯田 史朗
 鈴木平一郎
 萩野 兼夫
 後藤 眞一
 萩原 眞琴
 後 列
 前 列

観光建設委員会

- 委員長 / 土屋 源由
- 副委員長 / 菊池 俊彦
- 増島 一良・萩原 眞琴
- 鈴木平一郎・後藤 眞一

文教委員会

- 委員長 / 土屋 紀男
- 副委員長 / 伊藤 泰伊
- 水口 哲雄・秋田 清
- 萩野 兼夫・古屋 鋭治

《各委員会委員紹介》

議会運営委員会

- 委員長 / 山下 孝志
- 副委員長 / 鈴木平一郎
- 鳥居 松彦・土屋 紀男
- 土屋 源由・松下 善洋
- 古屋 鋭治・田中 正男

総務委員会

- 委員長 / 鳥居 松彦
- 副委員長 / 大沢 秀光
- 岩崎 正義・矢田 博美
- 板垣 紀夫・田中 正男

福祉環境委員会

- 委員長 / 松下 善洋
- 副委員長 / 柳沢 秀次
- 飯田 史朗・山下 孝志
- 三好 陽子・水口 成男



伊豆の国市議会は全議員の総意として議会だよりを発行することを決定し、このたび創刊号発行の運びとなりました。
 議会だよりが、市民の皆さんと共に「日本一安全で安心して住める街づくり」をしていくためのパイプ役としての機能が果たせるよう頑張ります。
 議会だよりに対する市民の皆さんからのご意見・ご要望をいただき、読みやすく、分かりやすい紙面作りに注力をしていきたいと考えています。



委員長 古屋 鋭治
 副委員長 菊池 俊彦
 委員 伊藤 泰伊
 大沢 秀光
 後藤 眞一
 田中 正男
 三好 陽子
 柳沢 秀次